

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	にいがたけんりつこくさいじょうほうこうとうがっこう				②所在都道府県	新潟県
27～31	① 学校名	新潟県立国際情報高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数				⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	国際文化科2学級×3年	194人
国際文化科	74	48	72		194	情報科学科2学級×3年	210人
情報科学科	69	69	724		210	平成27年度(5月1日現在)在籍者総数 404人	
⑥研究開発構想名	雪国*米どころ*魚沼の世界発信を通じた人材育成 ～浦佐から世界へ～						
⑦研究開発の概要	国際文化科、情報科学科を設置する専門高校としての教育を土台に、雪国で米どころでもある地元魚沼の魅力を世界に発信しながら、スーパーグローバル大学の国際大学・明治大学との連携を通じて、地域が抱える課題、さらには関連する世界の地域課題について、グローバルな視点から考察・提案できる人材の育成を目指す。						
⑧ 研究開発の内容等	⑧ -1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>積極的に国際教育に取り組むスーパーグローバル大学である国際大学・明治大学との連携を通じて、ふるさとへの愛着と誇りを持ち、地域の魅力を世界に発信しながら、南魚沼市や地元企業などの課題をグローバルな視点から提案できる人材の育成に取り組む。さらに本事業を通じて、論理的、分析的、創造的思考力、英語発信力を育成し、将来生徒一人ひとりが自身のキャリアパスを構築し、世界の地域課題に取り組む、国際舞台で活躍できるグローバル人材の育成を目指す。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>新潟県では人口流出、高齢化、過疎化が進行しており、地域の魅力を国内、さらには世界に発信し、県産品の販路開拓や観光振興等につなげることが重点政策とされている。また、ふるさとへの愛着と誇りを持つひとづくりが、新潟県の教育が現在目指しているところでもある。</p> <p>本校では、総合的な学習としての「魚沼学」を通じて南魚沼市や地元企業などの魅力と課題について認識・議論を深めたところであるものの、有効な発信・提案にはまだ到っていない。また、食糧問題、人口問題、経済格差など世界の地域課題に関わる探究・提案はこれからの課題である。</p> <p>国際化・グローバル化に伴う地域の課題を解決する政策や、グローバル人材そのものの育成が不可欠となっている現在、地域が抱える課題を認識し、地域への愛着や誇りを持ちながら、課題解決に向けてグローバルな視点を持って取り組む人材、地域の文化・産業の魅力を世界に発信できる構想力及びコミュニケーション能力を備えた人材の育成が高校段階でも必要である。その戦略・方法を以下の【仮説】を前提に研究開発する。</p> <p>【仮説1】 協働型課題解決学習に取り組むことにより、グローバル人材に必要とされる論理的、分析的、創造的思考力を育成できる。</p> <p>【仮説2】 地域の魅力を発信し、地域課題の解決に向けて英語で外国人と意見交換を行うことにより、地域に対する理解を深めるとともに地域への愛着と誇りを高めることができる。</p> <p>【仮説3】 グローバルな視点を持ち、地域課題について調査した上でプレゼンテーションを行うことにより、共通するグローバルな地域課題に取り組む姿勢を醸成できる。</p> <p>【仮説4】 課題研究と英語の授業の効果的な連携をはかることにより、英語によるコミュニケーション能力を育成できる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生等を対象とした、2年生の課題研究ポスターセッション 					

		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者等を対象とした課題研究発表を通じて地域への政策提言 ・SGH成果報告会，課題研究発表会の実施 ・校外での課題研究発表会や成果報告会への参加 ・「SGH便り（仮称）」の発行やホームページによる情報公開・提供
<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>		<p>(1) 課題研究内容 テーマ：魚沼の文化と産業を世界に発信し，地域課題を解決するための戦略および研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的・分析的な思考の基礎を学び，それらの思考法を身に付ける。 ・魚沼の魅力と魚沼の課題を学び，世界に発信する。 ・「地域の魅力を活かしつつ，地域課題・グローバル課題をどう解決すればいいか」をグローバルな視点を持って考える。 <p>(2) 実施方法・検証評価 「総合的な学習の時間」及び「ホームルームの時間」において，以下の課題研究を行い，外国人を含む大学関係者による「パフォーマンス評価」及び生徒自身が行う「パフォーマンス改善アンケート」を使った自己評価・ピア評価により検証評価を行う。</p> <p>◆【KJクリティカルシンキング・プログラム（KJ-CT）】 企業が持つ課題について，協働型課題解決学習により，課題認識・処理力，情報収集・活用力，論理的・分析的思考力，プレゼンテーション能力を育成し，魚沼学のための初期値的体験を修得する。</p> <p>◆【魚沼学 ①】 グローバル課題と地域の課題を比較することにより，双方の課題解決にむけて問題の認識と課題設定を行い，それについての解決策を考察する。</p> <p>◆【課題研究海外研修】 上記の地域社会の課題について，グローバルな視点から英語でプレゼンテーションを行い，海外という異文化の視点からフィードバックを得る。さらに現地にて必要なフィールドワークを行い，魚沼学につながる資料を収集する。</p> <p>◆【魚沼学 ②】 魚沼学①および海外研修で得た知識・フィードバック等からさらに地域の課題を設定し直し，解決策を深化させる。グローバルな課題と地域の課題がどのようにリンクしているかという視点から，それらを解決するために，ディスカッション，ディベート，プレゼンテーション，エッセイライティング等を国際大学の外国人講師のもとで行い，最終的な成果発表を英語でのプレゼンテーションで行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 適用なし。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 課題研究・発表のための英語運用能力の向上を目指し，海外大学進学コース生を含む希望生徒が国際大学によるIEP（英語集中プログラム）を受講し，4技能の向上を専門家により検証評価する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 必要なし。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法 海外姉妹校等との交流など，グローバル人材を育成できる機会を使い，課題研究テーマに関する意見交換及び調査を企画し，国際的な課題について考え，英語で意見交換をする機会を増やしていく。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>将来のグローバル・リーダーを目指し，海外の大学に進学を希望する生徒を支援するため，平成25年度に「海外大学進学コース」を開設した。コースでは，学校設定科目「グローバルスタディーズⅠ」及び「グローバルスタディーズⅡ」において，グループワークや英語を使い，論理的思考力やプレゼンテーション能力，問題解決能力等を養成している。</p>

ふりがな	にいがたけんりつこくさいじょうほうこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	新潟県立国際情報高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	240人
	SGH対象生徒以外:	158人	140人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 平成26年度は全生徒の3分の1が地域で奉仕活動を行っており、構想では全生徒の2分の1を目標とする								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	140人
	SGH対象生徒以外:	110人	67人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 平成25、26年度の1学年生徒の海外研修参加者数の1.2倍を目標とする								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:	37%	35%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 平成26年度の割合を、構想では約2倍にすることを目標とする								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 構想では5人を目標とする								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	30%	30%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 構想では20%増を目標とする								
地域の文化・産業に対する関心・行動意欲を持ち、自主的に地域について調査・発信する生徒数								
f	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:	20人	20人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 平成26年度の地域交流活動等の実施者を、構想では2倍にすることを目標とする								
地域社会の魅力を新たに認識し、地域社会を誇りに思う生徒の割合								
g	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	40%	40%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 構想では2倍にすることを目標とする								
将来地元の課題に貢献したいと考える生徒の割合								
h	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	10%	10%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 構想では5倍にすることを目標とする								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	35%
	SGH対象生徒以外:	25%	25%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 構想では10%増を目標とする									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:	1人	0人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 構想では5人の進学を目標とする									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	20%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 構想では20%を目標とする									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 構想では5割の60人を目標とする									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	110人	67人	人	人	人	人	人	160人
目標設定の考え方：平成26年度の割合を、構想では約2倍にすることを目標とする								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	12人	15人	人	人	人	人	人	170人
目標設定の考え方：平成26年度は海外大学進学コース生のみ、構想では一般生徒を含む170人を目標とする								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	2校	2校	校	校	校	校	校	5校
目標設定の考え方：平成26年度は海外の姉妹校等2校のみ、構想では2大学及び1高校の増加を目標とする								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	10人	10人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方：構想では2倍の20人を目標とする								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	10人	10人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方：平成26年度は10人、構想では地域の企業も含め3倍の30人を目標とする								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	8人	8人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方：平成25年度はJST主催「科学の甲子園」全国大会、26年度は全国高校英語ディベート大会に出場、構想では約2倍の20人を目標とする								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	1人	2人	人	人	人	人	人	3人
目標設定の考え方：平成25、26年度は帰国子女1人、スイスからの留学生1人、構想でははさらに外国人留学生1人の計3人の受入れを目標とする								
先進校としての研究発表回数								
h	1回	1回	回	回	回	回	回	3回
目標設定の考え方：平成26年度は海外大学進学コース担当者が1回行い、構想ではSGHとして3回行うことを目標とする								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	△	△						○
目標設定の考え方：平成26年度は学校情報についてのみ英語で閲覧可能、今後は他の部分についても英語で発信する								
TOEFLiBTを受験する年間延べ生徒数								
j	1人	7人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方：平成26年度の実験者数を、各学年8人、計24人にすることを目標とする								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	456	419	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							